ISSN　2186−0076

京都ノートルダム女子大学
研　究　紀　要

第　45　号

目　　次

【総説】
日本食の確立におよぼした要因…… 米　田　泰　子　1

【学術論文】
高齢者用食物選択動機質問票の基準関連妥当性の検討…… 加　藤　佐千子　19

「人とかかわる力」を育む音楽活動 …… 植　田　恵理子　31
　―「ひげじいさん活動」に見られる、子どものかかわりの変容に着目して―

スポーツツーリズムによる国際交流…… 内　田　和　寿　45
　香港バレーボールチームを事例として

CLIL 導入の目的と実施形態 …… 沖　原　勝　昭　59

数の理解と産出における初期発達…… 山　形　恭　子　71
　―数表記・計数を中心とした研究の概観―

【研究ノート】
障害の重い人たちの日中活動と居住支援に関する一考察…… 矢　島　雅　子　85

【学術論文】
川路柳虹と象徴主義・自然主義・印象主義・頽唐派…… 長　沼　光　彦　110

2015

京都ノートルダム女子大学研究紀要要項

（名称）
第１条　この紀要の名称は、「京都ノートルダム女子大学研究紀要」（英文名称 Bulletin of Kyoto Notre Dame University）とする。

（発行）
第２条　この紀要は、京都ノートルダム女子大学（以下「本学」という。）における研究・教育の成果を発表する学術研究誌であり、年１回以上の発行を原則とする。
２　発行は紙媒体（B5 判）による。

（編集）
第３条　この紀要は、本学図書館情報センター委員会（以下「委員会」という。）の共同責任制の下に編集される。

（執筆資格）
第４条　単著の場合の執筆者は本学教職員とする。
２　共同執筆の場合は、第一執筆者は本学教職員とする。
３　執筆者名はあらかじめ申し込み時に明記する。投稿原稿の執筆者名は申し込み時と同一とする。

（投稿）
第５条　投稿論文は、紀要同一号に対して１人１篇を原則とする。ただし、共同執筆の場合はこの限りではない。
２　執筆申込期日は別途定め、投稿論文の提出は委員長宛に行うものとする。

（原稿の種類）
第６条　投稿原稿は、未公刊の原著学術論文、研究ノート、資料のいずれかとする。論文は、研究目的、方法、結論が明確で学術的に価値ある知見を含むものとする。研究ノートは、限定された部分の発見や研究上の問題提議など、論文としてはまとまらないものであっても報告する価値のあるものとする。資料は、調査、統計、実験などの結果の報告で、研究の資料として役立つものとする。なお、委員会の依頼に基づく総説、公的な報告、資料の類はこの限りではない。

（原稿の構成）
第７条　論文１篇の長さは、本文、図版、図表等を含めて、邦文の場合刷り上がり 12 頁以内（刷り上がり１頁で 1,470 字に相当）とする。欧文の場合は 6,000 語以内とする。
２　邦文原稿には必ず英文の表題を付する。また、英文のアブストラクト（100 語以内）を付けることが望ましい。その場合の英文については、委員会が委嘱した校閲者が執筆者と協議することがある。
３　英文原稿は、APA、MLA 方式等の標準的な方式を基準とする。
４　執筆要領は、別に定める。

（倫理的配慮）
第８条　倫理的配慮を要する原稿に関しては、投稿原稿に利用したデータや事例等について、研究倫理上必要な手続きを経ていることを本文または注に明記すること。

（原稿の提出）
第９条　原稿は、完全原稿とし、３部を提出する（ただし２部はコピーしたものでよい）。閲読後、電子データを提出する。
２　原稿の提出期日は別途定め、原稿の提出は委員長宛に行うものとする。提出締切日を過ぎて投稿された原稿、および著しく不備のある原稿は、原則として受け付けない。

（閲読）
第 10 条　原稿は委員会委員及び委員会により委任された者が閲読する。原稿の採否は委員会において決定する。委員会は、閲読の結果、原稿内容の加除、修正を求めることができる。

（校正）
第 11 条　校正は執筆者の責任において行い、再校までとする。校正に際して原文の変更又は追加は原則として認めない。

（執筆者への提供）
第 12 条　掲載論文の執筆者に対しては、紀要３部と抜刷 30 部を無料で提供する。これを越える部数については執筆者の実費負担とする。

（著作権）
第 13 条　掲載された論文などの著作権は、京都ノートルダム女子大学図書館情報センター委員会に帰属する。ただし、執筆者自身が使用する場合はその限りではない。

（公開）
第 14 条　この紀要の全部又は一部を本学学術機関リポジトリにおいて公開するものとし、「京都ノートルダム女子大学学術機関リポジトリ運用規程」にしたがい、手続きを行うものとする。

附　則
　この要項は平成 10 年７月 15 日から施行する。
附　則
　この要項の改正は、平成 12 年１月 19 日から施行する。
附　則（平成 21 年２月 25 日改正）
　この要項は、平成 21 年４月１日から施行する。
附　則（平成 23 年１月 25 日改正）
　この要項は、平成 23 年４月１日から施行する。
附　則（平成 23 年 12 月 27 日改正）
　この要項は、平成 23 年 12 月 27 日から施行する。
附　則（平成 24 年 12 月 26 日改正）
　この改正は、平成 25 年４月１日から施行する。
附　則（平成 25 年 10 月 22 日改正）
　この規程は、平成 25 年 11 月１日から施行する。

編　集　後　記

大学の質と教職員の研究の質の相関関係を取りざたされるようになり、文科省の指導も年々厳しさを増しています。本学も教育の土台である研究を重要視し、『研究紀要』の編集にあたってはその時の編集委員のみで作業をするのではなく、かなりしっかりとした閲読という形態をとるようになってすでに５年になります。『研究紀要』は専任教員に限られた研究発表の場から、現在は非常勤講師や職員にも投稿可能に変更しています。ただ、閲読はあくまで閲読であって査読ではありません。閲読という中途半端なところでの選別がもたらす功罪についても考える必要があります。事実、毎回編集する度に閲読という制度について自ら考えさせられる機会になります。これを機にそれぞれの専門家に査読を依頼して、学術論文（査読あり）か否かという判定をするというのも一つの可能性です。とにかく、教員の雑務は膨れ上がる一方ですが、教員側は書き続ける必要があり、また質を保たなければなりません。益々求められることが多い時代ですが、みなさん、一緒にがんばりましょう。

2015（平成27）年3月
図書館情報センター委員会
（図書館情報センター図書館長）
委員長　須川　いずみ

図書館情報センター委員会（紀要編集委員会）

須　川　いずみ　　Robert Kritzer　　鎌　田　　均
鳥居本　幸　代　　伊　藤　一　美

京都ノートルダム女子大学研究紀要　第45号

2015（平成27）年 3 月30日発行

編集兼発行者　京都ノートルダム女子大学
〒606-0847　京都市左京区下鴨南野々神町 1
Tel（075）781－1173　Fax（075）706－3707

印　刷　所　株式会社　田中プリント
〒600-8047　京都市下京区石不動之町 677-2
Tel（075）343－0006　Fax（075）341－4476

BULLETIN
OF
Kyoto Notre Dame University

(KYOTO NŌTORUDAMU JOSHI DAIGAKU KENKYŪ KIYŌ)

Number 45 March 2015

Contents

Retrospective

Socio-cutural Influences on Japanese Cuisine ····· YONEDA Yasuko 1

Articles

An Examination of the Criterion-Related Validity of a Food Choice Motives Questionnaire for the Elderly ····· KATO Sachiko 19

Musical activities for nurturing "skills for involvement with people" ····· UETA Eriko 31
-Focusing on changes in involvement of children as seen through "Grandpa Beard Activities"-

International Exchanges through Sport Tourism ····· UCHIDA Kazutoshi 45
A Case Study of the Hong Kong Volleyball Team

WHY and HOW of Implementing CLIL ····· OKIHARA Katsuaki 59

Early Development of the Understanding and Production ····· YAMAGATA Kyoko 71
of Numerals : Studies of Numerical Notation and Counting

Research Note

A Consideration of the Daytime Activity of Severely Handicapped ····· YAJIMA Masako 85
People and Residence Support

Article

Kawaji Ryukou and Symbolism, Naturalism, Impressionism, and Decadents ····· NAGANUMA Mitsuhiko 110

Published
by
Kyoto Notre Dame University
1 Minami-Nonogami-Cho, Shimogamo, Sakyo-Ku
Kyoto, Japan 606-0847